

ラテン音楽への旅

血と愛と草原の歌

山本満喜子



山本 満喜子
やまもと まき こ

1917年 東京に生まれる
学習院高等科卒業
1950年 11月より1959年まで、ヨーロッパ、中南米諸国
に滞在。この間、カナダ航空アルゼンチン支店
に3年間勤務
1962年 キューバ政府より招待を受け訪問
現 在 音楽評論家
渡辺プロ・スターダスターズ・ダンシングチー
ム監督
日本キューバ友好協会文化部長
現住所 東京都渋谷区穂田3-79 穂田マンション 4

ラテン音楽への旅

定価 280 円

1963 年 10 月 8 日 第1版発行

著 者 © 山 本 満 喜 子
1963 年

発 行 者 竹 村 一

印 刷 所 暁印刷株式会社

製 本 所 永 井 製 本 所

発行所 株式会社 三 一 書 房

東京都千代田区神田駿河台2の9

電話 東京 (201) 9581~5番

振替 東京 84160番

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

三一新書 399

編集担当 井家上隆幸

ラテン音楽への旅

山本満喜子 著

三一書房

序

今度、山本満喜子さんが『ラテン音楽への旅』と題する本を書かれ、私に序文をかけのこ
とであるので、喜んでこれをお引受けした次第である。

まだ日本が占領下の昭和二十七年三月、私が最初の日本政府在外事務所長として、ブエノ
ス・アイレスに赴任した勿々の時、山本満喜子さんは私の家内のお友達よりの家内宛紹介状を
もって、ブエノス・アイレスにやってこられた。満喜子さんは爾来、ブエノスアイレスに在住
せられて、つい二、三年前に日本に帰ってこられたのである。

日本海軍を、世界一流の海軍に創り上げられた山本権兵衛提督の孫娘さんで、お祖父さんそ
っくりの、エネルギーな人格と、底抜けに明るい性格を持たれ、よく勉強し、よく社交せ
られた。

独乙式^{ドイッ}教育を受けられた仲々味のある人柄であり、又提督山本権兵衛伯爵の孫娘であるとい
うことで、アルゼンチンの上流社会でも、とても尊敬され、お付合いの範囲も広がった。又音

楽に特別の関心をもっていられたので、その方面の御交際も深かったように記憶している。

ラテン・アメリカ人は多分に日本人と共通したメンタリティーを持っており、特にアルゼンチン人は、日本人と似ている。これアルゼンチン・タンゴが日本人に受ける理由であろう。これを独乙式教育を受けた山本満喜子さんが如何に感受せられたかを知ることが、誠に興味深いことである。

茲に謹しんで、この本の御出版をお喜び申上げると共に、将来益々御活躍あらんことを祈る次第である。

昭和三十八年九月二十四日

外務省移住局長

高 木 広 一

目
次

序

1	ラ・クンパルシータ……………	9
	——私とラテン・アメリカ——	
2	“ピロポ”とお嬢さん……………	19
	——ティブロンとペルカンタ——	
3	リアチュエロの狭霧……………	30
	——下積みの人生をうたう美しい詩——	
4	オルガニータ・デ・ラ・タルデ……………	43
	——タンゴの故郷——	
5	だけど私は知っている……………	69
	——ブエノスの下町ッ子——	
6	プラサ・デ・マジョのエヴァ……………	88
	——愛に生きたある女性の生涯——	
7	ヴィダ・ミア……………	103
	——都会から草原へ——	
8	パンペーロ……………	125
	——草原の詩情——	
9	サンバ・デ・ラ・カンデラリア……………	142
	——草原と森と川の流れと——	

10	パチャ・ママ……………	151
	——太陽の子の悲劇——	
11	インディオの道……………	163
	——さすらいの吟遊詩人アタウアルパ——	
12	クジャウアイ……………	180
	——アンデスのロマンと哀愁——	
13	ミネロ・ポトシノ……………	203
	——鉱山とともに生きる魂——	
14	アスンシオン……………	221
	——神と牝豹の混血、青きバラナの流れ——	
15	ク・ク・ル・ク・ク・パロマ……………	243
	——サボテンと灼熱の太陽と赤土の国——	
16	紅の花フラムボジャン……………	280
	——カリブ海の真珠——	

あとがき

各章の題名下のカットは、牛や馬につける焼印のマーク。(8章参照)

1 ラ・クンバルシート

— 私とラテン・アメリカ —



私の父も母も音楽が好きだったので、私も幼い日から音楽に馴れ親しんで育ちました。もともと音楽といってもクラシックばかりでしたが、“遊び人”だったパパのおかげで、当時、ヨーロッパではやった流行歌なども聞くことができました。

あなたたちは知っているかしら、なんていうと、ずいぶん老人としよりめいたいいかただけど、昔の蓄音器レコードプレーヤー、ハンドルを手で廻してバネをまきレコードをかける。大きな朝顔型のラッパのついている蓄音器。今では、映画で時たま見ることができただけの。

その朝顔型の銀色のラッパから、金属性の大きな音が響いてくるのがとても怖ろしくて、大

きな声でワァワァ泣いたところから、しだいにマコマックやメルバの歌に魅せられ、ベートーヴェンやバッハを愛するところになると、プレーヤーに凝って、あの機械この機械ととりかえてみたり、演奏者を選び好みして、「私はこの人が好き」、なんて生意気なことをしゃべったりするようにまりました。

十五、六歳になると、踊りに熱中するといっしょに、ポール・ホワイトマンのジャズにおネツをあげ灰田兄弟がハワイから日本にやってきたころは、よく私の家に遊びにきたので、夏になると葉山の別荘の庭で円陣をつくってハワイアンにウットリと蕩酔したり、今はブルーコーツのバンド・マスターになっている小原重徳さんなんかとハワイアン・バンドを結成してラジオに出演したこともありました。

だからといって、別に古典音楽クラシックが嫌いになっただけじゃないのです。今でもとてもクラシックを愛しているし、ジャズだってハワイアンだって、同じように愛しています。

私が中南米音楽ラテン・ミュージックにひかれていったのは、私の従兄（札幌テレビ・松方権次）が、一九三七年から八年にかけて、ブエノスに行き、そのお土産に「ラ・クンパルシータ」と「メディア・ルス」のレコードを買ってきてくれたことにはじまります。

もっともそのころ、私が踊り手として参加していたグループの目賀田さんから、パリにおけるカナロやフレヤドの話をきかされ、タンゴについては、私たちも一応ダンスのステップとい

っしょに知っていましたけど……。

いずれにせよ、私が大変不思議に思っているのは、日本では、クラシック・ファンの人びとはポピュラー音楽をけなし、ジャズ・ファンはシャンソンやタンゴをけなし、タンゴ・ファンはジャズを軽蔑するということなんです。

私は、音楽ってそんなものじゃないと思うんです。クラシックにしろポピュラーにしろジャズにしろ、一技に秀でる者は「好み」は別としても、他を理解し、良いものは良いとして認め、受け入れていくことができるはずだし、それが本当だと思うんです。

そういう寛容さについていうか、つまり他をも認めるということを持ちあわせていない人は、いくつもの音楽について詳しくてもその音楽を熱愛していても、本当の音楽家、本当の音楽ファンとしての資格がないんじゃないかと思うんです。

とにかく、私は、二枚のレコードから中^{ラテン・アメリカ}南米への眼をひらかされました。あとでこの本の中かで幾度も出てくると思いますけれど、私は音楽を通して、その音楽を生んだ国ぐにの習慣や環境を知っていくことはとても面白いし、また民謡のなかにその伝説などを見つけたしいくのは楽しいことだと思っています。

私たちは案外気易く「ラテン・アメリカ」っていう言葉をつかっているけれど、「それじゃあ、どこの国のことをいうの?」って聞かれたら「さあ?」どんな国が、いくつあったっけ?」

と首をかしげてしまうのではないかしら。

だから、ちょっとがまんして地図を見てください。

このごろのように、飛行機が発達して世界中距離的にも時間的にも非常に近いという感じを持つような時代には、一度は世界の地図を頭のなかに入れておくことも常識の一つといえそうですから。

大ざっぱにいつて北米大陸の南、太平洋岸のロス・アンゼルスとメキシコ湾に面したサン・アントニオをつなぐ線から南に、角笛みたいになかったころをしたメキシコがあります。

三年前に來日して、日本にラテン音楽ブームをまきおこしたトリオ・ロス・パンチョス。続いて來日したロス・トレス・ディアマンテス。去年來日したロス・トロバドールス。みんなメキシコの産です。

そのメキシコから地図をたどって南にある国ぐにに——グアテマラ、サン・サルバドル、ホンジュラス、ニカラグワ、コスタリカ、パナマ、と小さな国ぐにがパナマ地峡にならんでいます。ここまでが中米。

パナマ運河をへだてて大きな南米大陸。ここが上の方からベネズエラ、コロンビア、英領ギアナ、エクワドル。ペルー、ブラジル、ボリビア、パラグアイ、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ十一カ国。それにメキシコ湾を抱く形になって上からのびて來ている北米のフロリダ半島

ラテン・アメリカの国々



とメキシコの角笛の根元ユカタン半島にはさまれて横たわる今日世界の腫を一身に集めているクーバ（キューバ）。その下のもっと小さい島ジャマイカ。右側に並ぶハイチ、ドミニカ、そしてその上のコスタリカ——、これがカリブ海の島々。

この全部がラテン・アメリカと呼ばれているのですが、今日、世界史的な見地や政治的な見地からは、これらの国ぐにの中で英蘭仏領のギアナ、英領ジャマイカ、米国の支配下にあるプエルト・リコをのぞいた二十カ国が中南米と呼ばれています。でも、私達が音楽を語る場合の中南米、ラテン・アメリカ、また実質上のラテン・アメリカとはジャマイカ半島をのぞく二十カ国全体をいうのです。

何故かって？

次の表をごらんになれば、わかると思うんですが！

ブラジルがポルトガル人によって最初に発見され、十五回以上もスペインと争ったあげく、ドン・ファンがブラジル王国と宣言して以来ポルトガルの統治下におかれて今日にいたったブラジルをのぞいて、他の二十一カ国は全部スペインの統治下におかれたいわばスペインという根の上に生えた木の枝同士のような関係にあるし、ブラジルを統治したポルトガルにしるやはり古代においては、今日のスペイン人と同じく古代ローマの血をひいている民族、かつてはラテン語を話した民族なのです。

中 米	面積 1,000 km ²	人口 1,000 人	首 都	国 語
メ キ シ コ	1,969	34,625	メ キ シ コ	スペイン語
グ ア テ マ ラ	109	3,759	グ ア テ マ ラ	"
ホンジュラス	112	1,950	テグシガルバ	"
サンサルバドル	21	2,613	サンサルバドル	"
ニカラグア	148	1,450	マ ナ グ ア	"
コスタリカ	51	1,149	サ ン ホ セ	"
パ ナ マ	74	1,066	パ ナ マ	スペイン語, 次いで英語
キューバ	115	6,638	ハ バ ナ	スペイン語
ハイチ	28	4,000	ポルトープランス	公用語はフランス語, 一般にはクレオール語
ドミニカ	56	4,071	サントドミンゴ	スペイン語

(注) 政体はメキシコが連邦共和国であるほか, 他はすべて共和国。したがって元首は大統領。

南 米	面積 1,000 km ²	人口 1,000 人	首 都	国 語
アルゼンチン	2,800	20,959	ブエノスアイレス	スペイン語
ブラジル	8,516	65,000	ブラジリア	ポルトガル語 (スペイン語, イタリヤ語も使用)
チ リ	741	7,550	サンチャゴ	スペイン語
ベネズエラ	912	6,895	カラカス	"
コロンビア	1,139	14,132	ボ ゴ タ	"
ウルグアイ	187	2,700	モンテビデオ	"
パラグアイ	407	1,718	アス・シオン	"
エクアドル	257	4,298	キ ト	"
ペ ル ー	1,249	10,857	リ マ	"
ボ リ ビ ア	1,098	3,349	ラ パ ス	"

(注) 政体はブラジルが連邦共和国であるほかは全部が共和国, したがって元首は大統領であるが, ウルグアイは執政協議会である。